

# 水稻中期栽培講習会資料

令和2年7月

JA たかさき・西部農業事務所普及指導課

## 1 当面の栽培管理

### (1) 水管理

生育時期	水管理	注意点等
移植後30 ～35日 (分けつ後 期)	中干し	<ul style="list-style-type: none"><li>有効茎数が確保されたら5～7日程度中干しを行います。中干しは土に小ひび(深さ1cm以内)が入り足跡がつく程度で終了します。中干しを実施することで、無効分けつの抑制、根の健全化、倒伏防止につながります。</li></ul> ※コシヒカリ等倒伏しやすい品種→早め(長め)
		◎1株当たり有効茎数の目安 コシヒカリ、ひとめぼれ：18～20本 あさひの夢、ゆめまつり：20～22本 程度
幼穂形成期	間断かん水	<ul style="list-style-type: none"><li>中干し後の根は根腐れを起こしやすいので間断かん水(2日湛水・3日落水)等、適切な水管理を行いましょう。</li></ul>
出穂25日前頃	浅水 間断かん水	<ul style="list-style-type: none"><li>*異常低温時の水管理</li><li>・減数分裂期(出穂25日前頃)から穂ばらみ期に17℃以下の異常低温が予測される場合 →15cm以上の深水かん水で、幼穂を低温から守る</li></ul>
穂ばらみ期 出穂期 穂揃い期	湛水	<ul style="list-style-type: none"><li>・出穂期7日前後は、水を切らさないようにしまししょう。</li></ul>
登熟期	間断かん水	<ul style="list-style-type: none"><li>・出穂後20日間の日平均気温が27℃を超えるとき(最高気温30℃以上、最低気温25℃以上)</li><li>・フェーン現象などで強風が予想されるとき →必ず湛水とし、可能であれば、かけ流し、夜間かん水、かん水回数を増やすなどこまめな水管理</li></ul>
		高温時の水管理 (高温登熟障害対策)で 玄米品質の低下を 防ぎましよう

出穂後30日  
以降  
(黄熟期)

## 落水

・早期落水は登熟阻害の原因となるため、落水は出穂1ヶ月以降とし、乾燥しすぎる時は走水を行って下さい。

### (2) 加里の中間追肥

加里の中間追肥は登熟歩合の向上や粒の肥大のほか、稈質の強化や根張りをよくし、倒伏防止、病害抵抗性の向上、高温登熟障害対策につながります。また、放射性セシウムの吸収抑制効果もあります。

施用適期：出穂前30～50日

施肥量：ケイ酸加里 30kg/10a、または塩化加里 10kg/10a

### (3) 穂肥

適正な穂肥の施用は、1穂粒数の増加、粒の肥大促進、登熟歩合の向上につながるほか、稲体の活力維持を行う事で高温登熟障害対策としても有効です。

表1 穂肥施用時期と施用量(目安)

品種名	窒素分量(kg/10a)	時期	幼穂長(目安)
あさひの夢	2～3	出穂前20日頃	約0.5cm
ゆめまつり			
ひとめぼれ	2	出穂前15日	約2cm
コシヒカリ	1.5～2	出穂前10日	約12cm

※葉色が濃い場合などは穂肥の量を調整し、窒素過多で倒伏や病害が発生しないよう注意。

### (4) 雑草防除

雑草発生初期に防除を行う事が効果的です。適期防除に努めましょう。

表2 雑草防除 薬剤例(2020/6/18現在)

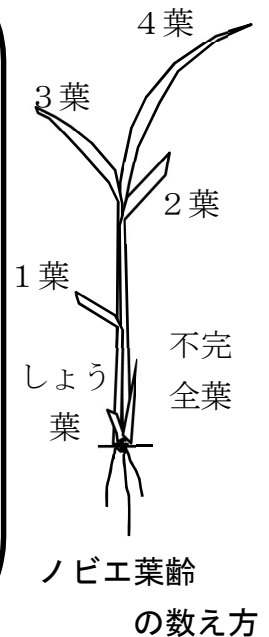
発生雑草	適用のある除草剤例	使用方法	使用量	使用時期
ノビエ	クリンチャー 1キロ粒剤	湛水散布	1kg/10a	移植後7日～ノビエ4葉期 (但し、収穫30日前まで)
			1.5kg/10a	移植後25日～ノビエ5葉期 (但し、収穫30日前まで)
水田一年生雑草(イネ科を除く)、クダマ、オモダカ、ホトメ	バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	落水散布又はごく浅く湛水して散布	3～4kg/10a	移植後15～55日(但し、収穫60日前まで)

一年生雑草、多年生広葉雑草	ワイドアタック SC	落水散布又はごく浅く湛水して散布	100ml/10a (液量 100ℓ/10a)	移植後 20 日 (休 5 葉期以降) ~ノビエ 6 葉期 (但し、収穫 30 日前まで)
ノビエ、多年生広葉雑草	アトトリ 1 キロ粒剤	湛水散布	1kg/10a	移植後 14 日 (休 5 葉期以降) ~ノビエ 4 葉期 (但し、収穫 45 日前まで)

【近年発生が増えている雑草】

ホソバヒメミソハギ (ミソハギ科)

- アメリカ大陸原産 ○一年生
- 草丈 30 ~ 80 cm
- ・水田害草として各地に広がっている。
- ・茎は四角柱状
- ・葉は細長く先が尖る。
- ・夏から秋にかけ、紅紫色の花を葉の基部に 2 ~ 5 個つける。
- ・果実は球形で、赤褐色



◀防除方法▶

- ・効果のある初中期一発剤で防除を行い、後発の個体は中干し頃にバサグラン粒剤等で除草する。
- ・それでも取りこぼしがある場合、次作で急激に増加するので、可能であれば抜き取りで除去する。

(5) 収穫適期の目安

適期収穫に努め、刈り遅れによる品質低下を防ぎましょう。  
コンバイン収穫は、籾水分25%以下になってから行いましょう。

表3 品種ごとの収穫適期 (水分25%以下) 目安

品種	出穂後の積算温度	帯緑色籾歩合
あさひの夢	1000℃~1100℃	10%
ゆめまつり	1000℃~1150℃	20%
コシヒカリ、ひとめぼれ	950℃	10%

注1 出穂後の積算温度・・・出穂期以降の日平均気温を足し上げた数値

注2 帯緑色籾歩合・・・穂の中で一部でも緑色の籾の割合

※積算温度や帯緑色籾歩合はあくまで参考とし、籾水分を見ながら総合的に判断してください。

(6) 乾燥・調製

脱穀籾は含水量が高く変質しやすいため、計画的に刈取り、収穫後すみやかに乾燥を行いましょう。

- 籾の水分含量が18%までは通風のみで乾燥を行い、その後送風温度 40~50℃

以下、穀粒温 35℃以下を目安に加温乾燥し、定期的に水分含量を調べる。

●水分目安

粳の仕上がり水分含量	… 14.0～14.5%
玄米の仕上がり水分含量	… 14.5～15.0%

※過乾燥は同割れ米を増加させ、食味を低下させるので注意する。

●米選機の網目は1.80mm以上とし、整粒歩合80%以上を目標とする。

## 2. 病害虫防除

### (1) イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカが媒介するウィルス病）

本病の発病およびウンカの発生が見られるほ場では、適期防除につとめ、後期感染による穂の出すくみを防ぎましょう。

●防除薬剤・スミチオン乳剤、ダントツ粒剤 等

※箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合は、同一系統の薬剤の連用に注意する。



葉のゆうれい症状 出すくみ症状

### (2) いもち病

ほ場で葉いもちの発生がみられるほ場では防除を行うとともに、穂いもちへの移行を防いでください。

●発生しやすい条件（葉いもち）

①平均気温19～25℃ ②降雨頻度が高く、多湿 ③夜間の風が弱く、朝露の乾きが遅い場合 ④イネが軟弱徒長気味で葉色が濃い場合など

●防除方法

①天気予報により、感染好適日を確認し、予防的に薬剤防除を行う。

②本田を定期的に観察し、早期発見に努め、初期病斑の発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

③補植用の取り置き苗は発生源になりやすいので、すみやかに処分する。

●防除薬剤・ブラシンフロアブル、ゴウケツ粒剤 等

〈穂いもち予防〉ブラシンフロアブル 穂ばらみ期（幼穂長15～20cm頃）



葉のずりこみ症状

激発ほ場（ほ場全面に発生）

初期病斑

### （3）稲こうじ病

前年多発ほ場、幼穂形成期以降の降雨の頻度が高い場合発生が多くなります。生育後半の窒素過多やも発生要因となるため、窒素の遅効きにならないよう穂肥の時期に注意しましょう。

●防除薬剤：防除時期（目安）

ドイツポルドーA ：出穂 15 日前（幼穂長 2 cm 位）

モンガリット粒剤 ：出穂 18 日前（幼穂長 1 cm 位）



稲こうじ病罹病籾



幼穂長

### （4）紋枯病

幼穂形成期以降、高温多湿条件が続くと多発する。また、窒素過多等で過繁茂、軟弱徒長となると発生しやすくなるため、適切な肥培管理に努めましょう。紋枯病の発生は収量低下や倒伏を助長するため、地際に発生が確認された場合、適切に防除を行ってください。

●防除薬剤・・・モンガリット粒剤 等



紋枯病病斑



紋枯病に起因する倒伏

※本資料記載農薬は、令和2年6月18日現在登録のあるものです。

- ◎農薬使用時は、ラベルを確認し、使用時期・使用方法・使用量を遵守しましょう。  
また、周辺に飛散させないように注意しましょう。
- ◎ 農作業時の事故には十分に注意しましょう。
- ◎ 熱中症に注意して無理の無い作業を心がけてください。